

茨城大学農学部同窓会会報



茨城大学農学部同窓会会報 第7号
平成17年3月
発行元：茨城大学農学部同窓会
〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
代表者 赤塚 尹巳
電話 029-888-8673 (事務局、正木)

第7号

第7号内容

- ・ **会員の声**
阿見キャンパス今昔雑感
学生時代の思い出
ヤーコンの故郷を訪ねて
- ・ **会長ごあいさつ**
- ・ **農学部長ごあいさつ**
- ・ **同窓会からお知らせ**
- ・ **教員の移動**
- ・ **会計状況・編集後記**

チチカカ湖とウロス島(ペルー)

撮影：月橋輝男 →
「ヤーコンの故郷を訪ねて」より



会員の声！

阿見キャンパス今昔雑感



菊池 傳
(農化学科・昭和三年卒)

今去ること、五十年前、桜花散る昭和三十年春四月初旬、水戸で一般教養課程を終え、春休み帰省後、専攻課程履修の為、夜汽車に揺られて、一睡もせずに土浦駅へ、土浦駅前から鹿島参宮鉄道バスに乗る。新町の坂を登り、茫洋とした春霞に煙る阿見が原のキャンパスに着き、古色蒼然たる兵どもが跡の校舎を見学、宿を今は無き曙町の平屋建飯住学生寮(旧海軍気象学校施設)へ、嗚呼、この地は十年前の国民学校五、六年生の頃に先輩に怒鳴られ、壘声を張り上げて歌わせられた、あの予科練の歌、発祥の地、若しも、あの戦が数年も続いていたら我等も・・・感慨一人のものがありました。専修課程のオリエンテーションで生物化学の佐藤教授の楽しそうな話題で心していた他の専修を一転、心変わりして農芸化学専修に決めたのでした。高校(定時制)で化学は東京農大醸造学科卒の伊勢新平先生に徹底的に仕込まれたことにもよります。如何やら無事、四年に進級し、卒論は佐藤教授の生物化学研究室で赤塚先生に私と菅原君の二人が卒論生になりました。他に、満州生まれ青森育ちの工藤君と湘南育ちの高梨君二人は平松先生につき、四人とも無事卒業、出来の悪い小生は、就職を断念、研修生で一年残留しておりまして。五十五年五月、縁あって、東

京医大東隣の関西系某給食会社に就職。後は、再三再四転勤、転属、紆余曲折、茨城工場に管理職員として戻る。新キャンパスを眺め、もつ一度、聴講生として新しい知識を習得し、再出発を發意、同級生の会社に再就職、同時に六十五歳から七十一歳の現在に至る六年間に亙り、今日まで働き学ぶ。若き学生と机を並べる学生生活を楽しみながら過してまいりました。諸先生方は小生より年若く、気恥ずかしい。又、学生には胡散臭い爺さん学生や、何やら扱い難い奴と思われているのではと危惧しております。昔とは違い、矢張り、と云うか当たり前と云うか、記憶装置が加齢とともに機能しない。然し、二十歳代の記憶はフラッシュバックするのですが、教室を出た途端に記憶は直ぐに消失し、悔しい思いを致します。試験の結果は散々で、限りなく零点に近い。あの爺にはと先生方には大変御迷惑を掛けてと恐縮している今日この頃です。

さて、五年間に履修した科目総数は二十五科目(落第科目は?科目か)でしょうか、他に潜り聴講もあります、今にして思うことは、良く続いたと思っております。

之も一重に先生方や職員皆様方の熱い御支援の賜物と深く感謝する次第です。思うに古来より、鉄は熱い内に打て、蓋し、名言なるかな。

農学部の五十年前のキャンパスは戦前の海軍施設の転用であり、老朽化し、見栄え悪く、随分、不十分な構造と設備、施設であった。講義室は蒸し暑く、冬は石炭ストーブが入るものの、傍を離れた所では寒さに震えて外套を着て授業を受けた。然し、見た目には悪いが事は外見では無い、中身だとの気概を先輩は残して呉れた様に感じております。

近年、新キャンパスは面目一新、略、全室に

冷暖房が入っていて勉学に何かと利するところが大です。又、昔は実験結果の加減は算盤を軽視していた為に小生は筆算の羽目に、乗除は高校で計算尺を習得していたので何とか処理した。然し、昨今はパソコンで、文章はワードで、統計はエクセル、文献検索複写、連絡等がキー一発で事は簡単に処理できる時勢である。おー、五十年の歳月！

諸設備機器等は完備状況に見える。学生はこのような施設、設備を勉学と自己啓発に十二分な配慮と関心を持ち、闊達自由な心理追求に活用する事を切に希求する次第です。

学生時代の思い出



菅野結男

(農学科・昭和四十年卒)

一昨年から昨年にかけて四回にわたり農学部を訪問する機会があった。資源生物科学科の見玉治教授(同窓)にフアイトアレキソンをはじめとするイネの免疫誘導関連化合物の分析に關し教えを請うためである。長谷川守文助手(同窓)の献身的な御努力のお陰で研究成果は期待以上のものがあり、無理を言ってお邪魔した甲斐があったと喜んでゐる。

農学部を訪問するのは私にとって実に二十数年ぶりのことであったが、先ずはキャンパスの大きな変貌ぶりに驚かされた。旧海軍の司令部だったという鉄筋コンクリート三階建ての堅牢な研究棟はもちろん、講義棟も霞光寮も私の記憶に残る建物は全て姿を消し、当時を忍ばせるも

のとして唯一発見できたのは旧研究棟の存在を示すべく意識的に残されたと思われる2本の門柱であった。それらに代わり、いかにも建築の美を追求したことが忍ばれる高層7階建ての研究本館をはじめ、キャンパス内全ての建物が近代的に生まれ変わっていた。変わったのは建物だけではない。そこに学ぶ学生諸君とて同じである。我々の世代では珍しかった女子学生の存在が半数近くにも達し、キャンパスは華やいた雰囲気にも包まれていたし、アジアやアフリカからの留学生の多いことにも驚いた。滞在中に見聞した研究内容も我々の時代とは比べものにならないくらい質が高い。大学院課程の設置や筑波地区研究機関との交流などが研究の活性化に結びついているのであろう。

私が学生だった昭和四十年前後、農学部には学内を二分するような大きな対立軸が存在した。水戸地区への移転問題である。移転賛成派と反対派が昼夜を問わずかまびすしく議論を戦わせていた。私の場合は「阿見に残つては農学部の将来はない。水戸に移転して他学部とともに発展を追求すべし」と移転賛成派に組んでいたように思う。しかし、現在の充実した農学部の姿を目の当たりにすると阿見残留を主張した移転反対派の諸君の主張が正しかったのかもしれないと多少自虐的に思ったりもする。今日のこうした繁栄は現旧の教職員の方々と学生諸君の多大な努力があったればこそなのであろう。率直に敬意を表したいと思う。そういえば同期生として一緒に学んだ原弘道君と永山精美君が、現在、教官として後輩の指導に尽力している。農学部滞在中に何度かお会いし、さまざまな苦勞話を耳にしながらくしぶりに旧交を温めることができた。心に残る嬉しい思い出の一つである。

ヤーコンの故郷を訪ねて ベルツアー

日橋 輝男

(茨城大学 名誉教授)



本年一月七日、十六日、丹羽勝先生(ヤーコン研究会副会長)を団長とするヤーコン研究会主催の表記ツアーが実施されました。一般からの希望者も含めて三七名のツアーでした。

リマのCIP(国際ポテトセンター)では、ヤーコンに関するセミナーを行い、クスコのクスコ・サン・アントニオ・アバド国立大学のヤーコン実験農場とクスコ市外のパウカルタンボ(往復で約九時間)でヤーコン栽培農家を見学しました。農家の傾斜地での1haの栽培は大変な苦勞が感じられました。また白、黄、赤の三系統を栽培しているとのこと、やはり原産地」の感を強くしました。

小生にとつて、ヤーコンの研究状況や農家の栽培状況を知ることは、極めて興味深いものでしたが、一方で観光も極めて楽しい思い出になりました。

同窓会会員の中には、ペルーを観光された方も多いと思いますが、今回は欲張ってナスカの地上絵、マチユピチュ、チチカ

マチユピチュの外観



力湖を見学しました。

ナスカの地上絵は上空からゆっくりと見学するのではなく、小型機で低空を急旋回しながらの見学で「そこそこOK」と言われても、アツと言つ間の出来事で、何も考える余裕が無くひたすら「そこそこ」と言われるその場所を探すのに夢中でした。

マチユビチユは、二回目の見学で、前回同様見学の途中で雨に降られました。雨季であることからやむを得ないのかもしれませんが、しかし、この遺跡でヤーコンを確認（自生が栽培は不明であるが）できたことは、一つの目的を達成できた充実感がありました。

チチカ力湖では、船でウロス島(表紙の写真)に渡り「トトラの浮島」を実感しました。浮島であるため、風によつてはかなり流されることもあるそうですが、流れるが故に島を繋げたり切り離したりすることもあるとか。島には学校もありました。私たちを歓迎して子供たちが日本の童謡を数曲歌ってくれました。このような生活を見て、生活の多様性を痛感しました。

独法化後の農学部について(会長 赤塚 誠)

同窓会長 赤塚 誠



会員の皆様、その後もそれぞれの分野で張り切つて活躍のこと存じ心からお喜び申し上げます。同窓会報の発刊に当り、一言ご挨拶申し上げます。母校の近況と言え、平成十六年四月一日より全国の国立大学は一斉に「国立大

学法人」として法人化され、茨城大学農学部も国立大学法人茨城大学農学部として新発足致しました。法人化により経営協議会の設置が義務

付けられ、本学の場合は学長、副学長、学部長等の学内委員十名と、茨城大学に関係のある民間人を主とする学外委員十名で組織され、すでに六回の会議が開かれました。経営協議会の役割は学長の選考とか、大学予算の審議とか授業料の値上げなどがこれまで審議した事柄です。私も委員の一人として協議会に出席しており、時折、法人化のメリットは何かという質問を受けますが私も余り明確には判りません。確かに形式上は国家公務員の数は減つたわけですが、

しかし、人件費は全部国がもつています。大学の運営も、文科省からの「運営費交付金」で縛られています。入学した学生がいるんな事情で退学等により学納金を納めなければ、それらの金額は予算から減額されます。赤字が出れば定年退職者の不補充によりその場を凌ぐなどいままのところメリットは見当たらないような気がします。結局のところ、法人化はバブル以来膨張し続けてきた組織や経費が、少子高齢化に伴い整理縮減を余儀なくされるため、大学の場合学長に今までにない権限を与え、大学に自主的にさせるための巧妙な手段と考えれば頷けるのではないかと思います。大規模大学、大都市大学、専門職大学等には有形で、いわゆる中堅以下の大学にとっては厳しい試練になると思います。

また「茨城大学社会連携事業会」という組織ができました。各学部の同窓会、教職員、卒業生の就職先の会社等から顧問、理事、会員等を募り、会費や寄附を集め活動してゆこうというわけです。同窓会長などは、自動的に理事にされ、なんらかの貢献をしなければなりません。同窓

会としても適当な寄附を検討しております。会員の皆様のところへも社会連携事業会から御協力の要請があると思っておりますので、その折には無理のないご協力をお願い申し上げます。大学の近況をながながと書きましたが、肝心の同窓会の役員会開催がのびのびになり申し訳ありません。五月の連休明けの頃に開きますのでよろしくお願い致します。私は同窓会館(霞光荘)を造つたところで会長職をどなたかに代つて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。終わりに会員の御多幸と御発展を祈りご挨拶と致します。

農学部の発展のために(農学部長 赤塚 誠)

農学部長 松田 智明



農学部同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年四月に農学部長に再任され、昨年三月までの国立大学から今後の国立大学法人体制への移行期をつとめることになりました。同窓会の皆様方には、変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。

昨年九月より茨城大学では、それまでの宮田学長に代わり、菊池龍三郎・前教育学部長が法人化後初代の新学長に就任されました。副学長・理事の二人も代わり、山形・前工学部長と村中・前人文学部長が就任されました。新しい体制のもとで法人体制一期六年間の大学運営が行われることになりました。法人化にともない、

新たに経営協議会という外部委員が加わった大学運営について審議する組織もできましたが、この委員の一人に赤塚先生も加わっておられます。

近年、農学系学部の志願者が漸減傾向にあるといわれています。この対策として農学部でも入試実施委員会による高等学校訪問に加えて、PR委員会を組織して、出前授業やPR活動を強化しています。また、高等学校の進路指導担当の先生方を対象にした、農学と農学部の説明会・見学会も実施しています。農学部の場合、理学部と異なり、高等学校の授業科目から学部の内容を理解してもらうことが困難なため、地道なPR活動が必要不可欠と考えています。同窓会の皆様方にも折にふれて茨城大学農学部のPRにご協力いただきますようお願い申し上げます。農学部では、地域との連携活動や産官学連携活動の強化にも取り組んでいます。昨年は、地元阿見町との共催による国際交流シンポジウム「湖沼環境・市民生活の調和と協調」が大成功をおさめました。また、茨城県や地域住民と協調した、環境にやさしい農業推進活動も四年度を迎えようとしています。今年二月には、茨城産業会議の会員を招いて、農学部訪問交流会を開催しています。

このように、教育と研究以外に、近年大学に求められる活動が多様化し、教職員が多忙になつていくことも事実です。しかし、大学の基本は教育と研究であり、充実した教育の実施とその裏付けとなる研究の推進にむけて一層の努力が求められているものと痛感しております。農学部同窓会員の皆様方におかれましては、このような大学をとりまく情勢がきびしさを増す折り、今後とも一層のご協力とご支援を賜ります

ようお願い申し上げます。皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会からお知らせ

(1) 昨年七月より、農学部同窓会ホームページ(<http://dousoukai.agr.ibaraki.ac.jp>)をアップしております。また、同窓会のメールアドレスは adoso@mx.ibaraki.ac.jp となっております。(2) 現在、茨城大学文理・人文学部県南同窓会と農学部同窓会との連携の準備を進めております。進展につきましては、会員の皆様にご連絡させていただきます。

(3) 同窓会館の一階に、展示コーナーが整備され、田中亮一先生(元本学教授・家畜育種繁殖学)ご寄付の歴史的な写真を展示してあります。

教員の移動(平成十六年一月～年十二月)

平成十六年三月三十一日

退職 教授 月橋輝男 (停年退職)

同年四月一日

昇任 助教授 井上栄一 (植物生産科学)

同年十月一日

採用 助手 小針大助 (附属農場・家畜管理学科)

会計状況(平成十四年度)

収入の部 項目(金額) 入会金(二二万円) 年会費(二二七万二〇〇円) 事業費・名簿売上代(〇円) 雑収入・預貯金利子(三三万四円) 前年度繰越金(九六万六四三円) 合計(三五四万六八五七円)

支出の部 事業費：同窓会報第五号(六八万八〇〇〇円) 事務経費：会議費(四万五五八〇円) 印刷費(四二二〇円) 消耗品費(七二〇〇円) 雑費(一六八〇円) 次年度繰越金(二

七九万七二七七円) 合計(三五四万六八五七円)

編集後記

今年度より、同窓会事務局の幹事をさせていただいております。今後とも会員皆様には、農学部同窓会へのご支援・ご声援を賜りたいと思っております。また、会長のごあいさつにもあります「茨城大学社会連携事業会」へのご支援につきましては、以下のようにご協力をお願いしております。

【趣旨】茨城大学では、法人化後、地域貢献活動支援事業や学生地域参画支援事業等を一層強力に進めるために、昨年この会が設立されました。農学部同窓会でも本事業に協力することになり、同窓会皆様に事業会員としてのご入会やご寄附のご協力をお願い申し上げます。ご入会やご寄附の振込み方法は次の通りです。

【会費】個人年会費 一口 三千元(一口以上) 団体年会費 一口 一万円(一口以上) 振込み先 (口座名義) 国立大学法人茨城大学 会費、常陽銀行本店 普通預金 番号2570034、あるいは水戸信用金庫袴塚支店 普通預金 番号1036551。

【寄附】一口 三千元(振込み先 (口座名義) 国立大学法人茨城大学 寄附金、常陽銀行本店 普通預金 番号2569988、あるいは水戸信用金庫袴塚支店 普通預金 番号1036543。

なお、上記金融機関の各本店・支店から振込みされる場合の振込手数料は、茨城大学が負担いたします。また、一万円以上の年会費あるいはご寄附される方は、税制上の優遇措置が講じられます。どうぞよろしくご協力申し上げます(正木)。